

熊本市「学校事務職員」の資質向上に関する指標

ステージ		熊本市が目指す着任時の姿		基礎・向上期（1～6年）		向上・充実期（7～15年）		充実・発展期（16年～）		
		〇教育に対する知見を深め、求められる資質・能力の基盤を形成する。		〇先輩の指導に学び、組織の一員として誠実に職務を遂行する力を身に付ける。 〇教育の目的、学校の特性及び役割を理解したうえで、学校事務に関する職務の理解及び知識を実践につなげ、自らの実践を省察し、学び続けながら企画、提案を行うことができる。		〇ミドルリーダーとして組織に貢献しようとする意欲と専門分野における高い実践力と連携、協働により、他の教職員と連携しながら着実に業務を遂行する力を身に付ける。 〇自らの実践を省察し学び続けながら、連絡・調整・指導ができる能力を身につけ、高度な専門性と実践力をもって、学校経営に参画する。		〇リーダーとして連絡・調整・指導ができる能力と、より高度な専門性と実践力を備え、組織全体を俯瞰し、校長の教育ビジョンを実現するために学校経営に参画する。 〇リーダーとして全校的視野に立った企画力・経営力及びチームで業務を遂行する力を身に付ける。 〇自らの実践を人材育成の視点に立って省察し、学び続けながら、高度な知識や熟練した技能を生かして、市内全域の学校事務職員の人材育成を担う。		
①学校事務職員に必要な素養	総合的な人間性・人権意識		〇自らの人間性や人権意識の向上に努め、一人一人の児童生徒を尊重しようとしている。		〇職務を通して、人間性や人権意識を高め、相手を思いやった言動をとっている。 〇児童生徒を個人として尊重し、意見をよく聞きながら職務を遂行している。		〇職務を通して、人間性や人権意識を高め、立場の違いや状況の違いに配慮した言動をとっている。 〇児童生徒を個人として尊重し、意見の背景までも理解しようとしながら職務を遂行している。 〇他の教職員を尊重し、教職員が連携して教育活動に取り組むためのリーダーシップをとっている。		〇教職員相互に、人間性や人権意識を高められるような職場となるように働きかけている。 〇児童生徒を個人として尊重し、意見の背景や保護者の思い等までも理解しようとしながら職務を遂行している。 〇他の教職員を尊重し、特に後輩教員に対して誠実に職務上の支援や助言を行っている。	
	教育的愛情・情熱 倫理観・使命感・責任感		〇熊本を愛し、教育的愛情をもち、一人一人のよさや可能性に目を向けようとしている。 〇法令の遵守と体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを認識し、教育に携わる公務員としての高い倫理観と強い使命感、責任感をもち、職務を遂行しようとしている。 〇児童生徒の人格形成に携わる職務の崇高な使命と職責の重さを理解している。		〇法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを常に意識している。 〇児童生徒を個人として尊重し、その多様性を認め、児童生徒の考えをよく聞きながら職務を遂行している。 〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職として、管理職や他の教職員、児童生徒や保護者の期待に応えるよう、誠実かつ公正に職務を遂行している。		〇法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等絶対に許されないことを常に意識し、他の教職員に対して積極的に関わり、教育及び校務を遂行している。 〇児童生徒を個人として尊重し、その多様性を理解し、児童生徒の考えをよく聞きながら職務を遂行している。 〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職としての誇りをもち、他の教職員、児童生徒や保護者の期待に応えるよう、誠実かつ公正に職務を遂行している。		〇法令及び服務規律の遵守はもとより、体罰やハラスメント行為等、絶対に許されないことを常に意識し、教育に携わる公務員としての高い倫理観をもって、職場全体の意識が高まるよう働きかけている。 〇児童生徒を個人として尊重し、その多様性の認識を教員間で共有するように努め、児童生徒の考えをよく聞きながら職務を遂行している。 〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職として誠実かつ公正に職務を遂行し、職場全体の公正に関する意識が高まるよう働きかけている。	
	社会性・コミュニケーション力		〇周囲の状況や相手の思いや考えを汲み取るとともに、自分の考えを伝え、互いを尊重して意思疎通を図ろうとしている。 〇組織の一員としての責任感をもち、協働することの重要性を理解し、実践しようとしている。		〇児童生徒や保護者に、自分の考えや思いをわかりやすく伝えるときともに、円滑に意思疎通を行い良好な人間関係を構築している。 〇組織の一員としての自己の役割を自覚し、管理職や他の教職員に相談や質問等、積極的に行っている。		〇児童生徒や保護者に、自分の考えや思いをわかりやすく説明するときともに、相手の意図を理解し、課題解決を図れるような意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 〇組織の一員としての自己の役割を自覚し、管理職や他の教職員と建設的な意見交換を行っている。		〇児童生徒や保護者や地域等に、自分の考えや思いを立場に配慮しながら説明するときともに、相手の意図の背景も含めて深く理解し、新たな方向性を見いだすなど発展的な意思疎通を行い、良好な人間関係を構築している。 〇管理職や他の教職員と建設的な意見交換を行い、学校全体で課題解決に取り組めるよう働きかけている。	
	自己教育力・専門性・探究力・創造力		〇学校事務職員の役割を理解し、職務内容等に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。 〇社会の変化に対応して情報を収集し、探究心をもって学ぼうとしている。		〇学校における自分の役割を自覚するときともに、自己の課題や多様なニーズをとらえ、専門性を高める研修と実践に取り組んでいる。 〇自身や学校の強み・弱みを理解し、研修等で疑問点や悩みを相談しながら、求められる資質能力を身に付けようとしている。		〇技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、自らの学びと実践の省察を通じ、課題対応や解決能力を高めている。 〇学校の課題を理解し、校内外の研修に積極的に参加するとともに、求められる資質能力を高めようとしている。		〇技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、継続的に新しい知識・技能を学び続けていこうとしている。 〇全校的な視野に立ち、他の教職員と協働しながら、一人一人の役割と課題解決力を生かして、計画的に課題解決にあたっている。 〇組織的・協働的な体制づくりの重要性を理解し、組織マネジメント等の研修にも参加するとともに、人材育成等、求められる資質能力を高めようとしている。	
	危機管理能力		〇危機管理の重要性を理解している。		〇生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、教育活動に生かしている。		〇生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備え、安心安全な教育活動を推進している。		〇生命や心身を脅かす事案や事故・災害等、危機管理の知識や視点を備えるとともに、安心安全な教育活動の推進のため、職場の体制を整えている。	
学校事務職員の実践	②学校事務職員として必要な専門性	マネジメント	学校の組織マネジメント	〇児童生徒・教職員等が安全で快適に過ごす学校環境を考え、充実させようとしている。	〇それぞれの職種の役割や働き方、特性を理解している。 〇学校が抱える課題について、児童生徒や他の教職員等から情報を収集し改善に向けて行動している。 〇学校経営に必要な情報を収集し、適切に管理するときともに、教育課程と情報を結び付け活用している。	〇学年主任や分掌主任と連携、協働し、他の教職員が持てる力を発揮できる環境づくりに関わっている。 〇学校が抱える課題について、情報を収集・整理・分析し、他の教職員と協働で改善に向けて行動している。 〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職として、学校運営に参画している。 〇管理職の学校運営の支援を積極的に行っている。 〇人材や情報資源を活用するための連絡・調整を行っている。	〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職として、学校経営を企画調整している。 〇業務の簡素化や効率化を図るため、職員間の対話を促進し、心身ともに健康で意欲的に職務を遂行できるような組織風土づくりを担っている。 〇タイムマネジメントの視点をもって、業務改善に向けた改善策を提案している。 〇学校内外の経営資源を把握し、教育活動の推進に資するものとして積極的な情報提供を行い、その活用際に連絡・調整を行っている。 〇組織全体を俯瞰して、データを活用して学校運営、校務の効率化を検討し、改善計画を立てる等業務改善につなげている。			
		学校事務支援室の組織マネジメント	〇組織の一員としての責任感をもち、協働することの重要性を理解し、実践しようとしている。	〇支援室において積極的に担当業務を推進している。	〇支援室において、組織的活動の活性化のための改善案を提案している。 〇支援室主任を補佐している。	〇支援室の統括・調整を行っている。 〇支援室内の事務職員の指導・育成を行っている。 〇市内支援室間や関係機関との連絡・調整を行っている。				
	総務事務	〇事務手続きに関する法規等を理解し、適切に運用しようとしている。 〇教職員に関する事務を適切に遂行している。 〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職としての自覚を持ち、担当する業務を処理しようとしている。	〇法規の基礎的な知識を持ち、学校の全ての活動は法規に基づいて行われていることを理解している。 〇教職員に関する事務を適切に遂行している。 〇学校組織における唯一の総務・財務等に通ずる専門職としての自覚を持ち、学校事務をつかさどっている。 〇自校のデータを管理・分析し、結果を学校運営や学校事務に活用している。	〇事務手続きに関する法規等について知識を深め、他の教職員と共有し、運用の改善を図っている。 〇自校のデータを管理、分析して課題を把握し、改善策の提案をしている。	〇事務手続きに関する法規等の理解を学校全体に広め、円滑な運用のための提案等を行っている。 〇法規に関する専門的で確かな知識をもって、学校経営に活用している。 〇自校のデータを分析し、他の教職員と協働して組織全体の課題解決につなげている。					
	財務事務	〇学校運営における財務管理の重要性を理解し、適切に予算管理等を行おうとしている。	〇教育環境の整備や教育活動のために、適正に予算管理をしている。 〇学校施設や財務事務に関して、直面する課題に気付き、管理職と相談しながら課題解決を図っている。 〇他の教職員と協力しながらICTの整備・調整を行っている。	〇教育環境の整備や充実した教育活動のために、適正かつ計画的な予算管理を行っている。 〇財務事務に関して、学校の教育目標の実現や教育活動の活性化につながる適切な助言を行っている。 〇他の教職員と協力し、ICTの効果的な整備計画を立て、教育委員会事務局と連携しながら整備を進めている。	〇教育環境の整備や充実した教育活動のために、学校内外の状況を多面的に把握し、学校予算を中・長期的に計画し、適切かつ計画的に予算管理をしている。 〇財務事務に関して、自校を取り巻く教育課題等を踏まえた適切な助言・指導・校務運営を行っている。					
③危機管理	リスク管理	〇危機を予測し、未然防止の在り方について理解している。	〇危機管理意識をもち、管理職の指導・助言を受けながら、安全確保対策を講じている。 〇危機発生時には、児童生徒の安全確保を第一に、対応方針に沿って行動している。	〇法規を解釈し、コンプライアンス徹底のための体制づくりの提案をしている。 〇危機を予測した未然防止の取組と、学校環境において必要な改善及び事故の再発防止の取組を提案している。	〇危機の未然防止のため、学校環境に必要な改善及び事故の再発防止の取組の中核的役割を担っている。					
	情報セキュリティ	〇熊本市の学校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解しようとしている。	〇各校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切な情報管理ができています。	〇各校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切に情報管理するとともに、関係者への啓発活動を行っている。	〇各校の「学校情報セキュリティ実施手順」を理解し、適切に情報を管理するとともに、関係者への啓発・助言・指導をしている。					
④児童生徒・保護者への対応	配慮を要する児童生徒への理解	〇特別支援教育に関わる指導・支援や合理的配慮、及びインクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、学習環境を見直そうとしている。	〇インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、児童生徒の特性や背景を把握し、合理的配慮を重視した学習環境整備等を行っている。	〇インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、児童生徒の特性を把握し、適切な支援につなげるよう校内での組織的な対応に努めている。	〇インクルーシブ教育システムの意義とそのあり方について理解し、一人一人のニーズに応じた適切な支援ができるよう、合理的配慮の提供や校内支援体制の充実、関係機関や地域との連携を行っている。					
	児童生徒・保護者への支援	〇全ての児童生徒の学びを保障するための制度を理解し、保護者連絡や情報提供を充実させようとしている。	〇児童生徒の家庭環境を考慮し、保護者に寄り添って、申請等の手続きの連絡や相談対応を行っている。	〇児童生徒の家庭環境や生活実態を考慮し、保護者や他の教職員の相談に応じて申請等の連絡・調整を行っている。	〇保護者の心情や生活状況を考慮し、保護者や他の教職員の相談に応じて申請等の連絡・調整を行っている。					